



国スポ出場 アイスホッケー本県成年男子

元プロ 高見若手けん引

青森県を中心に31日から開く国民スポーツ大会冬季大会で、アイスホッケーの本県成年男子は2月4日、初戦を迎える。9年ぶりに本大会の切符をつかんだチームの柱は、プロリーグ選手だったFW高見翼人(34)。四季設備。2021年に引退し、北海道から都城市に移住した当初は競技をするつもりはなかつたが、仲間や家族への思いも胸に、本大会での本県初勝利を目指に全力プレーを誓う。

北海道から移住

北海道釧路市出身。身長173cmと大柄ではないが、高いスケーティングやハンドリング技術で当たり負けしない。U18、U20やユニアーバーシアード代表に選ばれた経歴を持つ。

幼児期にアイスホッケーを始め、強豪の駒大苫小牧高、東洋大に進学。14年、同大学を卒業し、

技術伝授、初勝利へ全力



しかしコロナ禍もあって、新チームを取り巻く環境は悪化。2年間プレーした後、「ずっと釧路

にありながら真剣に競技レインズに移るかの選択で、新チームを選んだ。

しかしコロナ禍もあって、新チームを取り巻く環境は悪化。2年間プレーした後、「ずっと釧路

にありながら真剣に競技レインズに移るかの選択で、新チームを選んだ。

高見の加入でチームの意に触れ、里穂子さんの後押しもあって心変わりした。

「教えるのは好き」といふ言葉を聞いたように、自信を持ってプレーした

でやつていたので、違うチームに行く選択肢はなかった。知り合いゼロの高見は、「自分でも面白かった」と引退を決意し、妻・里穂子さん(33)の出身地、都城市に移り住んだ。

「新しい仕事に就いたらいい」「相手の方にスタイルに入団。ワインディング、かりで家族の時間も大切にしたいと、本県代表とセントラルを器用にこなしてプレーすることに、

3度目の九州ブロック大

会を控えた昨年11月、宮崎市内で練習試合の反省会が開かれ、県外選手はオンラインで参加した。

「この場面では、できれば2人でバトルしてほしい」「相手の方にスタイルを出すとストレスをかけられる」。高見の言葉を聞き逃さないよう、若手らは熱心に耳を傾けた。

DF姥原智仁(24)、県庁DFは「トップレベルでや

ついた方に教えてもらつて一緒にプレーできるのはありがたい。(高見から言わされたように)自信を持ってプレーした

するようになつた。自身3度目の九州ブロック大会を控えた昨年11月、宮崎市内で練習試合の反省会が開かれ、県外選手はオンラインで参加した。

「この場面では、できれば2人でバトルしてほしい」「相手の方にスタイルを出すとストレスをかけられる」。高見の言葉を聞き逃さないよう、若手らは熱心に耳を傾けた。

スティックを使ってアドバイスする高見翼人(昨年11月、高崎市中央公民館)

昨年12月の九州ブロック大会で本県代表としてプレーする高見翼人(福岡市(本人提供)

近畿ブロック1位の京都府。高見と、中学校の後輩で共にリーグを戦ったDF松野佑太(30)、県スポーツ協会を中心失点を抑え、好機をうかがう。高見は、「チームメートが伸び伸びプレーできるように自分たちが引張る」とゲームプランを描いている。(清水正樹)